

*Mission: Engineering for Sustainable Growth of the Global Community*

*Vision: Global Leading Engineering Partner*

*Values: Integrity, Creativity, Diversity, Learning, Team*



# 経営方針

2018年3月期 決算説明会

2018年5月15日

東洋エンジニアリング株式会社

1. 2018年3月期 業績
2. 第4四半期での売上総利益悪化
3. 米国エチレンの収支悪化理由と対策
4. 米国エチレンの状況
5. 進行中主要プロジェクト
6. 2018年3月期 総括
7. 再生に向けて
8. 2019年3月期 受注目標
9. 2019年3月期 業績見通し

# 1. 2018年3月期 業績

- ◆ 米国エチレンのコスト増により期間損失がさらに悪化
- ◆ 受注は見込よりも増加

(単位：億円)

	決算	通期見込 2018/2/7付	差異
売上高	3,356	3,500	△144
売上総利益	△125	30	△155
売上総利益率	△3.7%	0.9%	△4.6%
販管費	204	210	6
営業利益	△329	△180	△149
営業外損益	51	20	31
経常利益	△278	△160	△118
当期純利益	△268	△180	△88
受注高	3,093	2,500	593

- ◆ 受注残高：4,486億円
- ◆ 配当見込：無配

## 2. 第4四半期での売上総利益悪化

### ◆ 売上総利益悪化額

➤ 第4四半期売上総利益差異 : ▲155億円

### ◆ 売上総利益差異理由

➤ 米国エチレンでの悪化 : ▲176億円

➤ その他プロジェクトでの改善 : 21億円

# 3. 米国エチレンの収支悪化理由と対策

要因

- ◆ CB&Iの能力不足

※CB&I： 米国エチレンプロジェクトでの当社の工事サブコントラクター



課題

- ◆ 要員の確保
- ◆ 生産性目標の達成



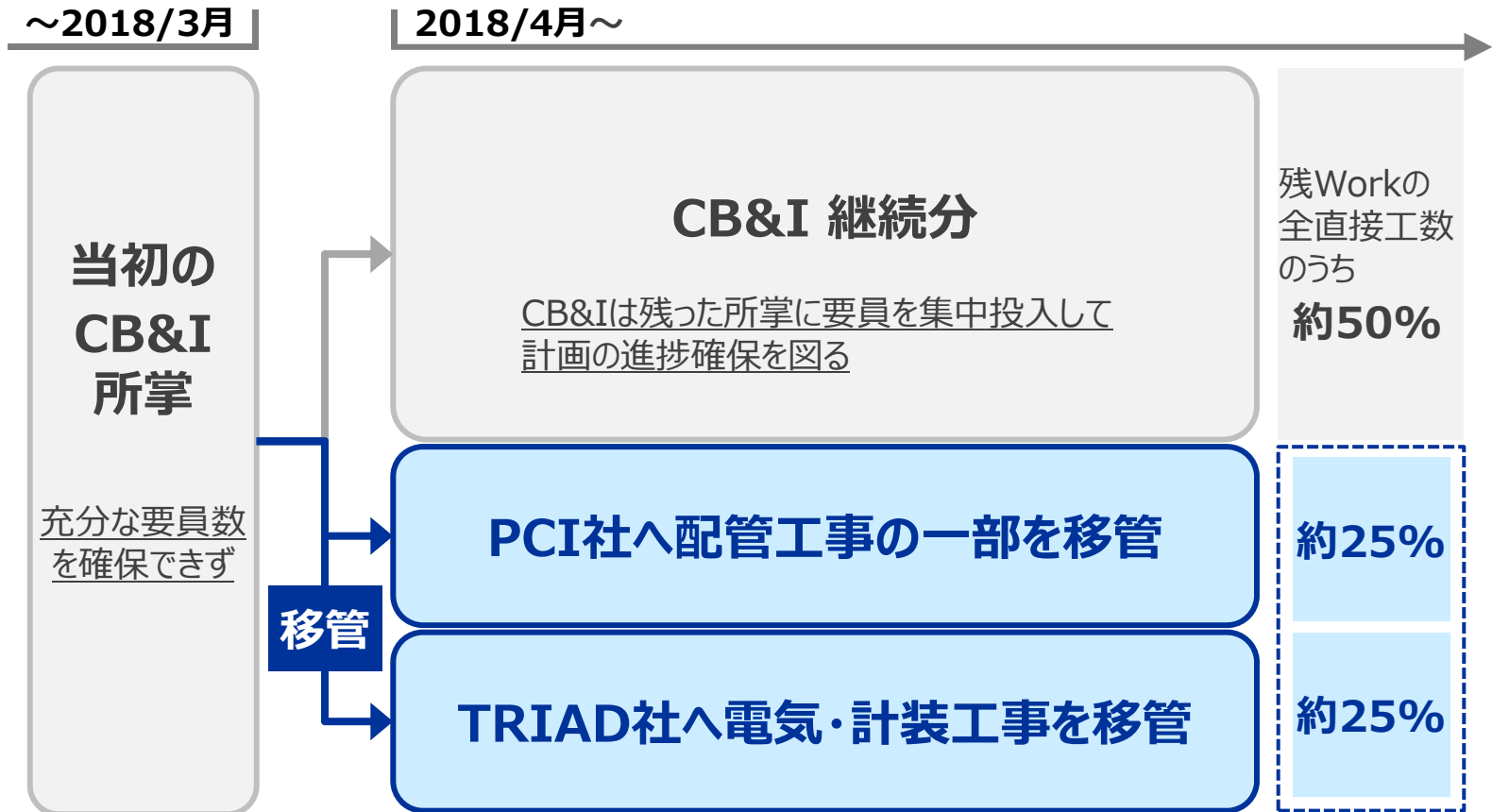
実行中の  
対策

- ◆ CB&I所掌の約半分を新規2社に移管
- ◆ TOYOの現場管理要員を増強し、進捗管理を徹底
- ◆ 各エリア専任チームを設け、TOYO・工事業者一体で、適時の状況把握・即時の対策指示可能な現場体制に変更
- ◆ 費用負担等に関し、工事会社等との協議を継続

# 4. 米国エチレンの状況


## ◆ プロジェクト状況

- 配管工事、電気・計装工事がピーク
- 新規2社への工事移管により要員を確保。生産性は改善傾向





# 5. 進行中主要プロジェクト


2018年3月31日現在


 トルクメニスタン  
2014 ガス石化コンプレックス


 インド  
2017 肥料  
2015 肥料


 ナイジェリア  
2017 肥料

 インドネシア  
2017 ポリエチレン  
2017 天然ガス圧縮設備  
2015 合成ゴム  
2015 都市高速鉄道

 日本  
2017 バイオマス発電 x1基  
2017 メガソーラー x3基  
2014 メガソーラー x1基

 タイ  
2017 ガス発電SPPx1基  
2016 ガス発電SPPx5基

 マレーシア  
2014 エチレンコンプレックス

 米国  
2015 エチレン

 ブラジル  
2013 FPSO トップサイド  
(P-74)

▲  
▲  
▲  
1<sup>st</sup> Oil達成  
(2018年4月)

※表示は受注年度

## 方針

## 総括

プロジェクト収益の確保



- ◆ 米国エチレンプロジェクトの収支悪化
- ◆ その他プロジェクトは順調に推移

受注の確保



- ◆ 粗利を確保しつつ目標を上回る約3,000億円の受注を獲得  
インド肥料、ナイジェリア肥料、バイオマス発電 他

企業基盤の強化



- ◆ プロジェクト収支悪化により財務基盤脆弱化
- ◆ 拠点の実力向上と連結収支貢献
- ◆ 固定費の圧縮と、要員の戦略的再配分

イノベーションの推進



- ◆ 省エネルギー型蒸留システム *SUPERHIDIC*®  
販売促進
- ◆ Digital Fertilizer実装開始



## ◆ 米国エチレンプロジェクトのコスト増防止と完工

## ◆ 再生計画の基本方針

事業構造の変革	事業ポートフォリオの変革	◆ プラント・インフラの2本柱で、商品群、地域の選択と集中を進める
	イノベーションの推進	◆ 新規事業の推進と、DXoT(Digital Transformation of TOYO)による業務効率化とコスト削減
組織力の強化	海外EPC拠点の最適化	◆ グループ全体としての業務最適化・標準化
	国内リソースの最適活用	◆ 事業ポートフォリオに合わせてプラントからインフラへの人員シフト
	リスクマネジメントの更なる強化	◆ 受注管理の徹底 ◆ プロジェクト実行管理の徹底
財務基盤の強化		◆ 固定費の圧縮等、様々な方策を検討・実施

# 8. 2019年3月期 受注目標

受注目標：3,000 億円

全社	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 拠点を活用し競争力強化</li><li>◆ 案件ごとに最適なパートナーリング (発電案件の主機メーカー、海洋資源開発のBaker Hughes/Aker Solutions等)</li><li>◆ 新日鉄住金エンジニアリング株式会社との連携深化</li></ul>
プラント事業	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 石化・肥料・ガスバリューチェーンを主とするダウンストリームで、アジア・ロシア・中央アジアなどで案件獲得を見込む</li></ul>
インフラ事業	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 旺盛な再生エネルギー市場で、良質案件組成の助成と獲得に注力</li><li>◆ 東南アジアにおける発電需要の取り込み</li></ul>
資源エネルギー事業	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 客先とのGESA*契約の継続</li><li>◆ 原油価格上昇に伴いサービス型プロジェクトの拡大</li></ul>
新規事業	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ イノベーション推進と新たな事業モデルの構築</li><li>◆ Digital Plantの更なる展開</li></ul>

\*GESA: General Engineering Service Agreement

# 9. 2019年3月期 業績見通し

(単位：億円)

	通期見込
売上高	3,000
売上総利益	210
売上総利益率	7.0%
販管費	190
営業利益	20
営業外損益	5
経常利益	25
当期純利益	10
受注目標	3,000

◆ 配当：無配（予定）



# 東洋エンジニアリング株式会社

URL <http://www.toyo-eng.com>

【お問い合わせ】

〒275-0024 千葉県習志野市茜浜 2-8-1

広報・IR部長 飯田 渉

電話 047-454-1681

E-mail [ir@toyo-eng.com](mailto:ir@toyo-eng.com)

本資料に記載されている見通しや業績予想などのうち、歴史的事実でないものは現在入手可能な情報から得た当社の経営陣の判断にもとづき作成しております。実際の業績は、当社の事業領域を取り巻く国内および海外の経済・金融情勢等、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは異なる結果となりうる事をご承知おきください。